

2 沿革

京都大学大学院理学研究科附属天文台は、花山天文台・飛驒天文台・岡山天文台により構成されている。

花山天文台は、大学天文台として日本で2番目、1929年にできた伝統ある天文台である。初代天文台長・山本一清教授の献身的な天文学普及啓発活動のおかげで、アマチュア天文学の聖地と呼ばれることもある。

飛驒天文台は、1960年代の山科地域の発展によって空が明るくなった花山天文台に代わる天文台として、1968年に創立された。太陽分光観測では世界屈指のドームレス太陽望遠鏡や、太陽全面H α 観測では世界最高性能を誇るSMART望遠鏡などを有し、太陽地上観測の世界的拠点の一つとして活躍している。

岡山天文台は、2018年に東アジア最大の3.8m光学赤外線望遠鏡が完成し、開設された。ガンマ線バースト、スーパーフレアなどの突発天体や系外惑星の観測で活躍している。

昭和4年(1929年)10月	花山天文台設立
昭和16年(1941年)7月	生駒山太陽観測所(奈良県生駒郡生駒山)設立
昭和33年(1958年)4月	花山天文台及び生駒山太陽観測所を理学部附属天文台として官制化
昭和35年(1960年)3月	花山天文台に、60cm反射望遠鏡完成
昭和36年(1961年)3月	花山天文台に、現在の太陽館と70cmシーロスタット完成
昭和44年(1968年)5月	花山天文台のクック30cm屈折望遠鏡を改造し、ツァイス45cmレンズを搭載
昭和43年(1968年)11月	飛驒天文台設立、管理棟・本館・60cm反射望遠鏡ドーム完工、60cm反射望遠鏡を花山天文台より移設、開所式挙行
昭和47年(1972年)3月	生駒山太陽観測所閉鎖
昭和47年(1972年)4月	飛驒天文台に、65cm屈折望遠鏡及び新館完成、竣工式挙行
昭和54年(1979年)5月	飛驒天文台に、ドームレス太陽望遠鏡完成、竣工式挙行
昭和63年(1988年)3月	飛驒天文台ドームレス太陽望遠鏡駆動コンピューター更新
平成3年(1991年)3月	飛驒天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体パネル一部修理工事完了、飛驒天文台15mドーム駆動装置更新工事完了
平成4年(1992年)3月	飛驒天文台に、太陽フレア監視望遠鏡及びドーム完成
平成8年(1996年)3月	花山天文台にデジタル専用回線導入
平成8年(1996年)11月	飛驒天文台研究棟及び管理棟外壁等改修工事施工
平成9年(1997年)3月	飛驒天文台ドームレス太陽望遠鏡に高分解能太陽磁場測定装置新設
平成10年(1998年)10月	飛驒天文台専用道路に光ケーブル敷設工事施工 高速データ通信回線(384 Kbps)開通
平成11年(1999年)3月	花山天文台18cm屈折望遠鏡に太陽H α 単色像デジタル撮影システム完成
平成11年(1999年)11月	花山天文台デジタル専用回線を128 Kbpsから1.5 Mbpsに高速化、飛驒天文台研究棟・管理棟改修工事及び管理棟合併浄化槽敷設工事施工
平成12年(2000年)9月	飛驒天文台デジタル通信回線を1.5 Mbpsに高速化、かつ専用回線に切替え
平成13年(2001年)3月	飛驒天文台65cm屈折望遠鏡15mドームスリット等改修工事完了
平成14年(2002年)3月	花山天文台建物等改修工事施工
平成15年(2003年)3月	飛驒天文台に太陽活動総合観測システム(SMART望遠鏡ほか)新設

平成15年(2003年)11月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体冷却システム改修工事完了
平成17年(2005年)5月	3.8m望遠鏡開発に対し、藤原洋氏(インターネット総合研究所代表取締役)が支援開始
平成18年(2006年)3月	飛騨天文台にダークファイバーと岐阜情報スーパーハイウェイを利用した高速データ通信回線(100 Mbps)開通
平成18年(2006年)8月	花山天文台にダークファイバー利用の高速データ通信回線(1 Gbps)開通
平成20年(2008年)12月	飛騨天文台研究棟耐震補強工事施工
平成22年(2010年)3月	フレア監視望遠鏡を飛騨天文台からイカ大学(ペルー)へ移設
平成25年(2013年)1月	花山天文台が京都市の”京都を彩る建物や庭園”に選定される
平成25年(2013年)12月	3.8m望遠鏡建設の概算要求(補正予算)措置決定
平成27年(2015年)1月	3.8m望遠鏡用ドームの概算要求予算措置決定
平成29年(2017年)3月	花山天文台本館・太陽館外壁等改修工事施工
平成30年(2018年)7月	岡山天文台に3.8m(せいめい)望遠鏡完成